

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

2024年12月発行

vol. 30



かわすみ家

綿を取にハ、晴天にてよく吹切たるを 取事勿論也。

「綿圖要務」より

特集 / 企画展示

祭礼展 石切劔箭神社と枚岡神社の祭り

pick up!

細密切り絵展 / 切り絵体験会

やさしい暮らし 昔にならうー畑より思い繋ぐー

歴史コラム

日下の町「日下の滝と河内名所図会」

河澄家の自然 綿と棉

旧河澄家 指定管理者 株式会社アスウェル

展示・イベントのご案内

河内書家会主催

秀鳳書の教室 わくわく書道展

以下の書家 澤川秀鳳さんの作品と
お友さんの書道作品を展示します

2024. 12/12(木) - 2025. 1/13(月・祝)

12月12日(木) 10:00~18:00
12月13日(月・祝) 10:00~18:00

会場 河内書家会
デザイン書道と
新春の力レンジャーづくり

講師 澤川秀鳳 氏
日時 12月15日(日) 10:00~15:00
定員 10名 小学生以上、小学生は保護者同伴
事前にはお電話で申し込みが必要です。お申込みの人数で定員を
決めさせていただきます。お申し込みは、お電話または、お申し込み
用紙を提出してください。

会場 河内書家会
12月12日(木) 10:00~18:00
12月13日(月・祝) 10:00~18:00

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。

孔舎衛校区福祉委員会主催

新春大道芸公演と昔遊び
お餅のお土産付

「河内小橋」一帯による南京玉すだれや傘回し等の大道芸公演に加え、
南京玉すだれ、傘回しの体験もできます。
奥座敷や庭でコマ回しや羽子板、お手玉など昔遊びも楽しむ事ができ、
参加者全員にお餅のお土産があります。

令和7年1月5日(日) 10:00~14:00

大道芸公演(舞台)
第1回 10:00~11:00
第2回 11:30~12:30
第3回 13:00~14:00
昔遊び(奥座敷) 10:00~14:00

場所 河内書家会

参加無料
定員:合計120人
(各40人、事前に参加申込必須)
申込:12月5日(水)18:00より受付開始
河内書家会にお電話、又は
P12「イベントカレンダー」より申込
先着順、定員に達した時点で終了

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。

展示・イベント

「秀鳳書の教室 わくわく書道展」

2024年12月12日(木) ~ 2025年1月13日(月・祝)

孔舎衛校区福祉委員会主催

「新春大道芸公演と昔遊び お餅のお土産付き」

2025年1月5日(日)

「サブローごまを作ろう」

2025年1月12日(日)

「河内の古民家御財印めぐり展」

2025年1月25日(土) ~ 2025年2月16日(日)

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



目次

04 特集 祭礼展 石切鋤箭神社と枚岡神社の祭り

枚岡神社に祀られている藤原氏の祖先神等について

06 日下の瀬 日下の滝と河内名所図会

江戸時代の観光書『河内名所図会』で紹介された日下の名所「日下の滝」

08 イベントレポート

ひと針、ひと針 絵画刺繍展／リボンで刺繍を楽しもう
キリッタイ展／立体切紙キリッタイを作ろう！
あんがいおまる一座朗読劇公演「雨月物語—夢窓の鯉魚」
古代体験会 はにわを作ろう！
東大阪市の古民家御財印めぐり

10 Pick Up

細密切り絵展／切り絵体験会
やさしい暮らし 昔にならう —畑より思い繋ぐ—

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

ワタ

棉、綿／わた、メン

アオイ科ワタ属 一年草

オクラの花によく似たワタの花は、花が萎んで約2週間くらいになると、9月から10月くらいに朔（さく）とよばれる桃に似た青い実になります。朔が熟し、弾けると種を包んだ白い綿状の繊維がでてきます。これを「棉吹く」「桃吹く」といいます。雨に濡らさないよ



オクラの花に似た



綿花がついている外側の茶色い果皮
綿殻

うに棉を摘み、天日に干し、種と綿に分けます。
綿と棉のちがい

〔棉〕は植物としての状態のワタのこと、収穫した種付きの状態までを木へんの〔棉〕で表記します。棉から種をとって繊維の状態にしたワタのことを糸へんの〔綿〕と書きます。

祭礼展



① 枚岡神社



② 枚岡神社 注連(しめ)柱
「神事宗源」



③ 枚岡神社 注連(しめ)柱
「天孫輔弼」

令和六年十月一日から十月二十七日までの間、恒例の「祭礼展」を開催しました。会場では大宮顯秀氏の協力により、氏子地区の布団太鼓と、だんじりのミニチュア十二台を含め土呂幕の彫刻や布団締め刺しゅう柄を再現したレーザー彫刻、装飾具など合わせて約七十点と、地区ごとの写真パネルを展示致しました。

祭礼展は平成二十七年(二〇一五)年に始まり今年で十回目を迎えました。記録によると、これまでほとんど触れられて来なかった石切御箭神社の祭礼を紹介しながら、地域の文化や歴史の記録という客観的な視点に立ち、自らの地域について考える一助となることを目的として始められました。

二回目からは、地車・布団太鼓模型コレクターである大宮顯秀氏にご協力いただき、枚岡神社の布団太鼓も加わり、普段は一度に見ることのできない地車・布団太鼓を鑑賞することができ、それぞれのタイプや様々な彫刻や刺繍があることを学ぶことができました。祭礼は、神社へのお参りと「太鼓台」などの神賑(かみにぎわい)で構成され、どちらも欠かせることが出来ません。十回目の今回は、折よくNHK大河ドラマで藤原氏が取り上げられている事も合わせて、その祖先が祀られている

ます枚岡神社にスポットをあてた説明パネルを新たに展示致しました。

【枚岡神社・元春日】

枚岡神社は「南方は平坦にして小高き岡なりしが故」(枚岡神社ホームページより)に「ひらおか」神社と称し、河内国一之宮であり、藤原氏の祖神(天児屋根命)が祭られている古社です。神武御東征の勳、霊地神津嶽(かみつだけ)に祀られ、その後春日大社(奈良市)創建の折、枚岡神社に祀られていた、天児屋根命・比売御神の二神が影向せられましたので、枚岡神社が「元春日(もとかすが)」とよばれる所以です。

「こ祭神「天児屋根命(あめのこやねのみこと)」について」

◎中臣家(後の藤原家)の祖先神。神事宗源(しんじ そうげん)の神様。

初めて神事を執り行った神様。天照大神が天の岩屋に隠れた時、その前で祝詞を奏して天の岩戸が開かれたことから、神事を司る神様として称えられています。

「中臣遠祖天児屋根命、則以神祝祝之」

「日本書紀 神代卷 上」天岩戸

(訳文) 中臣連(なかとみのむらじ)の先祖の、天児屋根命(あめのこやねのみこと)神祝(かみほぎ)を述べた。

「且天児屋根命、主神事之宗源者也」

「日本書紀 神代卷 下」天孫降臨(訳文) また天児屋根命(あめのこやねのみこと)は神事の元締の役である。

◎天孫輔弼(てんそん ほひつ)の神様

天孫降臨の際、天照大神から皇室を守り国土を防護するよう命ぜられて天下つてまいられました。

天孫より続く国土の守護神として祀られています。

「復勅天児屋根命 太玉命 惟爾二神亦同侍殿内 善為防護」。(日本書紀 神代卷 下)

(訳文) また天児屋根命と太玉命に勅して、「お前たち二神は、共に同じ殿中に侍(はべ)って、この国をよくお守りの役をせよ」と言われた。

「二神約諸神話について」

摂関時代後期に入ると、天皇と藤原家の君臣関係は天照大神(天皇の祖先神)より天児屋根命(藤原家の祖先神)への神勅によるものとする「二神約諸神話」が興ります。平安末期に成立の私撰歴史書「扶桑略記」(寛治七年(二〇九三)八月二十二日丁卯条 皇円・比叡山功徳院)には(訳文)「日本国は天照大神の神勅により 天児屋根命の扶持するところである。上は王室を衛(まも)り 下は民家を撫(な)す天



④転害会図会 先導の荷太鼓



⑤転害会図会 神輿

画像④⑤ 転害会図会 第二巻

手向山八幡宮蔵

【出典】奈良女子大学学術情報センター



⑥摂津名所図会



展示風景 主屋にて



展示風景 主屋にて

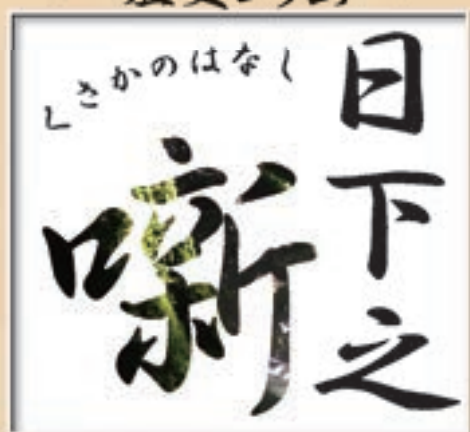
【藤原道長「望月の歌」について】
「この世をば我が世とぞ思ふ望月の欠けたることも無しと思へば」『小石記』（寛仁二年十月十六日の条 著：藤原実資）は有名な歌です。祝宴の折、道長が実資に「今から座興で歌を詠むので返歌せよ」と命じて「望月の歌」を詠んだが、実資は「御歌優美也 無方酬答 満座只 可誦此御歌」（「優美な歌で、返歌のしようがない。皆でた

だこの歌を詠じてはどうか」と出席者に呼びかけて、一同がこの歌を数回吟じたとあります。長年にわたり、これは道長の奢りとそれに反目する実資を表すと解釈されてきました。近年の研究では、道長が天皇の治政を寿ぐ歌であり、実資もそれに同調したと解釈されています。歌を返さなかった実資を責めない道長も、普段は良し悪しを問わず、「感賞」や「嘆息」等と、はっきりとしたコメントを残す実資の、どちらとも言えないこの姿も頷けます。国上の扶持を付託された天児屋根命の子孫である藤原道長にすれば、「そりやそうだろ」というところでしょう。国内の災害や疫病の対策を怠り、酒食にふけていた兄たちを退けた藤原道長も藤原家の務めにただ忠実なだけだったかもしれません。

枚岡神社は藤原家の祖先神で、国土平定の神、天児屋根命を始め比売御神、武神の武甕槌命、経津主命が奉斎され、ひとつのご神徳にとられず、あらゆる祈願に応え、時の権力者からばかりでなく、広く崇敬される神社として現在に至ります。
【祭礼について】
祭礼中の太鼓やお囃子は中世より始まる、神輿を先導し太鼓を鳴らして祭行列の到来を知らせる荷太鼓にあると推測されます。東大寺の鎮守神の手向山八幡宮（奈良市）に所蔵の転害会図会には、天文八（一五三九）年の祭礼が描かれています。神迎えの神輿を先導し太鼓を鳴らして祭行列の到来を知らせる様子が伺えます。

大宮氏の、精巧で本物さながらのミニチュア布団太鼓等をご覧になり、DNAの中の記憶を呼び覚まして戴きましたら幸甚に存じます。
江戸時代後期の「摂津名所図会 巻四」（寛政十（一七九八）年刊 著：秋里（藤島））の説明書には、「祭日の神輿渡御前に太鼓を鳴らして神様に振り向いてもらう事は、「陰の氣」を消して「陽の氣」を招く習わしによる」とあります。つまり、太鼓台を始め神輿（かみにぎわい）は、発展しない「陰の氣」を消して、伸びしろのある「陽の氣」を招く習わしによるとの事です。祭礼で地域の皆が血沸き肉躍るエネルギーは何処から来るのでしょうか。それは中世からの伝統の為せる業と云えます。

—歴史コラム—



豊かな自然と文化の街、日下

生駒山麓～日下地域、河澄家の
過去から現在に至るまでのおはなし

日下の滝と河内名所図会

日下町八丁目大龍禪寺のそばを流れる川に沿って東に二百メートル余り登った川畑家敷地内に「日下の滝」があります。日下の滝は今でこそ水量の減少で樋から流れ落ちるわずかな水の流れが見えるだけになっていますが、かつては享和元年（一八〇一年）に発行された江戸時代の観光ガイドブックである『河内名所図会（かわちめいしよずえ）』巻乃五に紹介されるほど有名な観光の名所でした。

『河内名所図会』の記述では「日下滝 日下村大龍寺より式町許、山奥にあり」と日下の滝の場所が示され、水走梅園作による「涼しさや三千尺の滝の糸」という俳句が添えられています。

また明治二年（一八八九年）に善根寺村、日下村、布市村が合併してできた日根市村の村誌（発行されず）の原稿を基に編集

された昭和三六年発行の『くさか村誌』にも日下の滝についての次の記述があります。「日下ノ滝ハ大字観音山ノ南端ニアリ、水源ヲ生駒山ニ発ス。又大龍寺境内ニ在ルヲ以テ一名大龍寺ノ滝ト称ス。高サ三丈アリ。大龍寺縁起ヲ案ズルニ、桓武天皇延暦九庚午年夏大二早シ雨降ラザルコト数旬、於是里人集マリテ大龍寺ニ冥助ヲ観音ノ前ニ請フ。感応立下コロニ著シク観音山頂燃ユルガ如キ巖間ヨリ清泉俄ニ滑々トシテ今至リ絶エズ。之を当滝の由来トス。」要約すると「日下の滝は大字観音山の南端にあり、水源を生駒山に発する。又大龍寺境内にあることから一名大龍寺の滝と称する。滝の高さは約十m。大龍寺縁起によると、桓武天皇延暦九年（七九〇年）の夏に大旱魃（かんばつ）があり、雨が降らない日が数十日間続き、里人が集まって大龍寺観音に助けを求めた。その願いはすぐに神仏に通じ観音山の頂の燃えるような岩の間から清泉がたちまち満ちて今に至っても絶えることが無い。これを当滝の由来とする。」と述べられています。

現在も日下の滝のそばには水走梅園が勢いよく流れる日下の滝の涼しさを詠んだ句「涼しさや三千尺の滝の糸」が刻まれた石碑があります。三千尺の滝とい



樋から流れ落ちる日下の滝の水



日下の滝 全景

う表現については、中国の唐の時代の詩人李白が廬山の滝を遠望して詠んだ「望廬山瀑布」の「飛流直下三千尺」から引用した表現だと考えられますが、当時の目下の滝の水の流量が相当豊富であつたに違いありません。また目下の滝の滝壺両脇には観音山山頂付近にも祀られている役行者像と、大岩大神・小岩大神を祀った岩があり、滝を形成する岩も信仰の対象になっていたと考えられます。

川畑氏によると昔はこの滝壺の周囲に池ができるほど水の量が豊富だったとのことです。滝の水量が近年著しく減少した原因については明確ではないものの、観音山周囲での樹木伐採や、また観音山周辺での採石工事も影響している可能性があるとのこととす。

『河内名所図会』の著者秋里藤島は他にも『和泉名所図会』や『大和名所図会』など多くの名所図会を刊行しました。掲載内容は各地の神社・仏閣が中心ですが、多くの伝説・伝承などが挿絵入りで紹介されています。この目下地域の名所として他に取り上げられているのが「目下大龍寺」と表題付きで大龍寺周辺の鳥瞰図が描かれており江戸時代の地域の様子を知ることができる貴重な資料になります。その大

龍寺の挿絵の右下には今は廃寺となつて詳しい情報が少ない「正法寺」の様子が描かれています。この図から正法寺は広い寺域に複数の建物を擁する大きな寺院であつたことを知ることができます。



「涼しさや 三千尺の滝の糸」句碑



滝壺横の役行者像



河内名所図会に紹介された目下の滝



河内名所図会 目下大龍寺と正法寺



大岩大神・小岩大神

旧河澄家にて開催しましたイベント＆展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

ひと針 ひと針

絵画刺繍展

二〇二四年七月三日(水)〜

七月二四日(水) 開催

手づくりのよさ

コロナ禍で改めて手仕事の価値が見直されました。モノが買えなければ、手づくりすればいいと感じた人も多いと思います。それと同時に手仕事や手芸は、自分の進歩を実感し、自分が作りだしているものに誇りを持つことができ、心身にもよい効果をもたらすことができるという研究結果もあるそうです。今回主屋にて、世界各地で古くから受け継がれてきた手仕事のひとつ刺繍作品をご紹介します。「刺繍工房アトリエ」主宰の松原好子さんと生徒の皆さんの作品八〇点。ひと針、ひと針縫い、幅広い表現力をもつ刺繍の世界をじっくりとお楽しみいただきました。

会期中、布にシルクリボンを刺しながら花模様を描いていくリボン刺繍を楽しむ教室も開催し、手づくり刺繍の魅力にも触れました。



絵画刺繍展示風景 主屋にて



ザシキにて



刺繍作家
松原 好子さん

立体切紙キリッタイ展

二〇二四年七月二七日(土)〜

八月二五日(日) 開催

キリッタイ(Kiritai)は大東守氏が生んだ新しいスタイルのペーパークラフトで、一枚の紙を二つに折って設計図や下書き無しではさみを使って切り抜き、立体的に折ることで動物などが息を吹き込まれてリアルな姿を現します。

今回の展示にはジオラマ三点を含む動物や鳥・恐竜・昆虫・魚などの様々な種類の作品約三十点が出品され、中には全長約3mの金龍(抜け殻は約4m半)も展示されました。それらのキリッタイ作品を目にしてリアルで生き生きとした仕上がりで感動の声を上げる来場者もおられました。

また二〇二四年七月二十八日(日)には「立体切紙キリッタイを作ろう!」を開催、参加者たちは大東守氏の指導で一枚の紙からリアルな象のキリッタイ作品を作り「このような

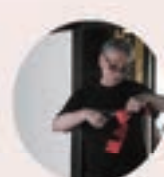


ジオラマ「里山の生きものたち」

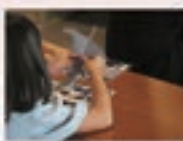


ジオラマ「恐竜の時代」
主屋 ザシキにて

立体的な切り紙を作るのは初めてでしたが、リアルにできたので嬉しいですね。」という声が寄せられました。



立体切紙 kirittai 作家
大東 守さん



象のキリッタイに
挑戦!

あんがいがおまる一座朗読劇公演
『雨月物語―夢応の鯉魚』

二〇二四年九月二三日(日) 開催

毎年、旧河澄家にゆかりのある上田秋成作の怪異小説『雨月物語』の中から一話を選んであんがいがおまる一座による朗読劇公演を開催しています。あんがいがおまる一座には『雨月物語』全九編の中から毎年一編を、朗読の中に芝居部分を入れた朗読劇の形式で公演いただいております。八回目の今年には『雨月物語 夢応の鯉魚』をご公演いただきました。三井寺の僧侶・興義の、鯉の放生の功德により一度は尽きた命の蘇生と彼が見た不思議な夢、描いた鯉が紙から抜け出して泳ぐという不思議な話を、内容に沿って選曲された雅楽を始めとする様々な調べにより、迫力があり非常に見ごたえのある朗読劇でした。約二百二十年前に河澄家を訪れた上田秋成の世界を堪能する一日となりました。



朗読劇公演より 主屋にて



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/



作品はにわある愛



協力してはにわ作り

などの感想が聞かれ、楽しい御財印めぐりの一日となりました。



血回しに挑戦、お手伝い



金魚、スーパーボールすくい

近畿大学ゼミによる流しそうめん及び夏の出店と、「河内小梅」の皆様による玉すだれや皿回しなどの大道芸体験を八月十八日(日)に行いました。

流しそうめんではパイナップルを流したり、子供たちと一緒に射的や金魚/スーパールすくいを楽しんで、夏の暑さを吹き飛ばしました。そうめんを食べ終わった後は、「河内小梅」の皆様による、すだれでいろいろな形をつくる南京玉すだれや、皿回しを演じてもらいました。唄に合わせて踊りながらすだれを変化させて、大人も子供もみんなが楽しそうに見ていました。日本の伝統芸能に触れる貴重な体験でした。まだまだイベントを企画しておりますので、次回も参加されることを心より楽しみにしています。



会話を楽しみながら
そうめん流し

古代体験会

はにわを作ろう！

一〇二四年九月三日(祝)開催

近つ飛鳥博物館からお越しいただいたお二人の講師の方のご指導により、古代について学びながら粘土で「はにわ」をつくるイベント「古代体験会 はにわをつくらう！」を開催しました。はじめにスライドを使って古墳時代に大量に製作された「はにわ」について解説をしていただきました。その後、粘土をくり抜き自由に作り、個性のかつ独創的な「はにわ」が出来上がりました。

ご参加の方々よりは「作るのには難しかったけど楽しかった」、「イメージ通りには出来なかったけど、それも楽しい製作でした」、「小さい子と一緒に楽しめた事が嬉しかった」など、皆さんが一緒に楽しんで思い出に残るイベントとなりました。

東大阪市の

古民家御財印めぐり

一〇二四年十月五日(土)開催

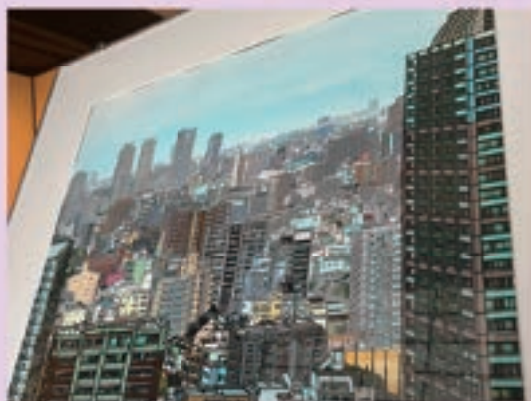
東大阪市にある四軒の古民家を選んで御財印スタンプを集めて回る街歩きを開催しました。十月になったとはいえ、まだまだ気温が夏同様に高いこの日、近鉄石切駅に集合した参加者約二十名は、目下町の旧河澄家、旧井上家、東石切町の藤井家住宅、今米の川中家住宅と屋敷林を夫々の住宅の管理者や所有者から説明を聞きながら順番に見学し、夫々の「御財印」を集めて回りました。

「御財印めぐり」とは、大阪府登録文化財所有者の会が主体となり、各地で大切に継承されてきた文化財などのデザインを表象した「御財印」を集めてめぐり、その地域の人々とのふれあいや文化・歴史を楽しみながら未来につなげる応援の旅で、現在百ヶ所以上で頒布されています。参加者からは「家の中まで見せていただき説明も良かった。維持管理の大切さがわかった。」「古民家をまとめて見ることができ、御財印をもらえて良かった」

峰滝ゼミ

流しそうめん&大道芸体験

近畿大学ゼミによる流しそうめん及び夏の出店と、「河内小梅」の皆様による玉すだれや皿回しなどの大道芸体験を八月十八日(日)に行いました。



幾層にも重なった細密な切り絵「高層化する街並」

切り絵は下書きの工程が重要で、気に入った下絵を切り進めて裏側に色紙を貼った後に表を向けた瞬間に感動するといいます。南斎氏はできるだけ多くの人に作品を見ていただいて切り絵の魅力を知っていただきたいと話します。

製作工程についてはまず細かな下絵を作成し、黒画用紙に転写し、カッターで切り抜きます。切り抜き終わると、作品に色づけします。色づけは、色紙や色和紙を利用し、切り抜いた部分に最適な色を裏から貼り付けて出来上がります。



細密切り絵展

大阪・奈良の風景

夢感じる「パレカスから見たい風景」

二〇二四年八月三十日（金）～九月二三日（月・祝）の期間で大阪・奈良の風景や風物等を題材にした切り絵作家 酒井南斎氏の作品を展示する「細密切り絵展」を開催しました。

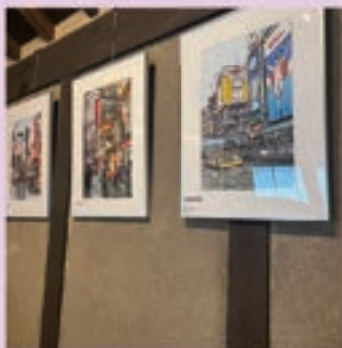
酒井南斎氏は大阪市東住吉区出身で、大阪の魅力を広くアピールするための作品を制作することからスタートして大阪・奈良の風景・風物を現在約百点制作し、他には「花鳥図」や花と虫を題材とした作品なども制作しています。制作された作品は様々な機会に出品され数々の賞を受賞しています。

切り絵体験会

九月一日（日）に酒井南斎氏指導による「切り絵体験会」を開催いたしました。体験会では予め準備された菊の花の下絵を基に黒い紙をカッターナイフで花びらの部分から切り除いて行きます。次に茎や葉の部分までナイフを入れて切り取ります。その後黒い紙の裏側に花びらの部分は黄色い色紙を、茎と葉の部分には緑色の色紙を貼り付けて、最後に全体を台紙に貼り付け、決まった大きさの外形に切り揃えれば完成です。参加者からは、「キレイな作品が出来て良かった。もっとすごい物を作りたいな。」など感想が聞かれ、参加者の皆さんには切り絵の作品作りに夢中になる楽しい時間を過ごしていただきました。



古都 奈良の美しい風景作品



「なにわ三十六景」より親しみある大阪の風景作品

paper cutting workshop



切り絵体験作品



菊の切り絵に挑戦！

一人ひとり丁寧に切り方のご指導
切り絵作家 酒井 南斎さん

やさしい暮らし
昔にならう

畑より思い繋ぐ

河内木綿

綿を摘み

綿を取にハ、
晴天にてよく吹切たるを
取事勿論也。

江戸時代の綿づくりの研究書
「綿圖要務」より



糸紡ぐ 中井 由美さん

江戸時代から明治時代のはじめにか
け河内地方（大阪府東部）で栽培され
た綿から糸を紡いで手織りされた木綿
のことを、一般に「河内木綿」といい
ます。江戸時代、丈夫で長持ちで、着
れば着るほど軟らかくなり、肌触りも
よくなるので、庶民の布地として重宝
されていた河内木綿。

大和川水系の河川によって洪水被害
の絶えなかった中河内ですが、宝永元
年（一七〇四年）の大和川の付け替え
により綿作がますます発展しました。

綿づくりの思いを馳せながら旧河澄
家南西畑にて綿を育てています。

今年も平均気温が二〇二三年夏に並
ぶ観測史上一位の高温となり、土や葉
の状態を小まめに観察しながら水をや
り、心配しながらも、晴天にてよく吹
切たる綿を収穫することができまし
た。

今年は、種を蒔いたあとの双葉を食
べられてしまい、見事に全滅：こんな
ことははじめての出来事でした。河内
木綿の再生と継承に取り組まれている
「河内木綿はたおり工房」さんの日
下の畑で、育てた苗を分けていただき
ました。代表 中井由美さんをはじめ、
スタッフのみなさんには今年一年も本
当にお世話になり、ありがとうございます。

ました。

九月から十一月の綿の収穫時期には
主屋南側縁側にて綿を天日干し、お越
しくくださった方が関心をもってお声か
けくださり、スタッフそれぞれの思い
を伝えながら畑にご案内して河内の風
土が育んだ河内木綿について語らいま
した。

収穫した綿は、河内木綿の糸紡ぎ・
機織り体験、地域の小学生の昔の道具
体験の綿織りにて使います。



機織り体験 風景



糸車で紡いだ糸も織り込み
完成した手織りコースター

河内木綿糸紡ぎ・

機織り体験会

石切参道にある「河内木綿はたおり
工房」中井由美さんにご指導いただ
き、伝統の復活と手しごとの楽しさをお
話いただき、河内木綿の製作工程で
ある綿織り、綿打ち、糸紡ぎを体験。
卓上機織り機を使ってコースターを手
織り、毎年底にある植物で糸を染めて
いますが、過去に染めた残り糸を無駄
にしたいけないと中井さん。染めた
糸（梔子、枇杷、藍）を整理し、細か
く分けて巻き、準備しました。それぞ
れ好みの色で、織りはじめ、織りおわ
り、糸の始末を学びながら、河内の
風土が育んだ河内木綿に触れました。
日々の暮らしにぜひあたたかみのある
手織りを取り入れてみてください。

体験

手しごとを楽しむ



綿織り



綿打ち



糸紡ぎ



2024年12月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

河澄家は、河内国に自生する水草で、古くは貴族の専ら武具の文様として用いられていました。葉の形が矢に似てることから、別名「箭草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性があります。詳しくはお問合せください。

秀鳳書の教室 わくわく書道展

12/12 (木)
～1/13 (祝)

本展示は日下地域でご活躍の書家と生徒さんの作品を展示、第4回目となります。今回～1/13 (祝)は、日下在住の書家で、「秀鳳書の教室」を開く深川秀鳳さんと生徒さんの作品を展示します。見学は無料です。

日本の伝統文化や芸術としてだけでなく、習い事としても長い歴史のある書道の魅力に触れてみてください。

見学無料



新春大道芸公演と昔遊び お餅のお土産付き

1/5 (日)

昨年大好評いただきました孔舎衛校区福祉委員会主催の新春大道芸公演と昔遊びを開催いたします。「河内小梅」一座による八房流南京玉すだれや、傘回し等の大道芸公演、南京玉すだれや団田し体験もできます。

奥座敷や庭では、コマ回しや羽子板、お手玉など昔遊びもできます。参加者全員にお餅のお土産があります。

共催：近畿大学時津ゼミ 見学無料



サブローごまを作ろう

1/12 (日)

宮本順三記念館「豆玩会 ZUNZO (おまけやズンゾ)」磯田武士さんにご指導いただき、人気のワークショップ「サブローごまは、ビー玉と厚紙を組み合わせたもので、好みのデザインで創作できるコマです。「作る」ことの大切さを伝えたい」宮本順三さんの思いで、折る刃式黄色いカッターで有名なOLFA 創業兄弟の一人である岡田三朗さんが考案したサブローごまです。

参加無料



論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日

声に出して文字を読む「素読」。
素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言葉をまとめた書物で、心を打つ警句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。

参加無料



きょうかわすみけ

東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地 〒579-8903 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号 TEL/FAX 072-954-1640
ホームページ <http://www.kyu-kawasumi.jp>
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
祝日の翌日・12月29日～1月3日
入館料 無料
駐車場 5台(無料)
満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- ・近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約30分
- ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約25分
- ・近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条堀行き」または「住道行き」に乗り「南目下」バス停より徒歩15分
- ・JR 学研都市線「住道駅」または「四条堀駅」より、近鉄バス「東花園前行き」に乗り「南目下」バス停より徒歩約15分

マイカーをご利用の場合

- ・旧河内170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861

FAX: 072-952-4340

URL <http://www.asuwell.co.jp>
E-mail mail@asuwell.co.jp



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認定を受けています。

